



指 導 案

思いを届けるスピーチ

1 学習のねらい

相手が喜ぶような具体的なエピソードを選び、キーワードを手がかりに相手と目線を合わせて話すことができる。

2 番組活用にあたって

自分の思いを届けるためには、どのようなスピーチをすればよいのでしょうか。「やさしかった」「楽しかった」「親切だった」「勇気があった」など、相手をほめる言葉をたくさん使えばよいと思っている子もいますが、相手に思いを届けるためには、「なぜ自分はそのような思いをもったのか」についての具体的な出来事をさがすことが大切です。

番組では、「リンちゃんはやさしかった」ということを伝えるために、「朝が苦手なぼくのために、夏休みに毎朝ラジオ体操に誘ってくれた」というサトルとリンの具体的な思い出を探し、それをスピーチに生かしています。このように「どうしてぼくは、そう感じたのか」ということを具体的な出来事と結びつけると、相手が喜んでくれる内容になります。

また、番組では「キーワードスピーチ」を提案しています。スピーチ原稿を書くと、ついつい「原稿を読む」あるいは「丸暗記して話す」ということになりがちですが、キーワードスピーチはそれを防いでくれる手段です。相手を見て心を込めて話した言葉には重みがあります。すらすら話せることばかりに夢中にならずに、目を見て話すことを大切にするとよいでしょう。

3 指導の流れ

① 感謝の思いをスピーチにするとき、誰にどんなことを伝えればいだろう。

- ・ 給食を作ってくれている人に、給食を作ってくれてありがとうと伝えたい。
- ・ 読み聞かせボランティアの人に、本を読んでくれてありがとうと伝えたい。



② どういうスピーチをしたら、喜んでもらえるのだろう。

1. 番組を視聴する。
2. 伝じろうは、なぜ「最悪だった。子守歌かと思った。」と怒っているのだろう。
 - ・ サトルのスピーチが面白くなかったから。
 - ・ サトルのスピーチでは、思いが伝わらないから。
 - ・ 「やさしい」「おもしろい」だけだったら、サトルじゃなくても誰でも言えるから。
3. 自分だけにしか言えないようなエピソードを探すには、どうしたらいいだろう。
 - ・ 「どうしてスコップ」を使って、1年間のいろいろな出来事を思い出さないといけない。
 - ・ 相手が忘れていたり、知らなかったりすることで、自分だけが覚えていることがいい。
 - ・ エピソードを見つけるのは思ったより大変だけれど、ここが肝心だ。



③ 自分だけのエピソード（具体的な内容）を見つけて、スピーチ原稿を書こう。

1. 誰に向けて話すかを決める。
2. その相手に対してどういう思いをもっているかを考える。
3. そういう思いをもったのは、なぜか、具体的なエピソードを見つける。
4. エピソードをもとにして、スピーチ原稿を書く。



④ キーワードを抜き出して、キーワードスピーチの練習をしよう。

1. スピーチ原稿からキーワードを抜き出して、カードに書こう。
2. カードを見ながら、スピーチの練習をしよう。